
(3) 性感染症定点把握対象疾患に関する動向

鹿児島県感染症発生動向調査企画委員会委員
鹿児島大学医学部・歯学部附属病院 血液浄化療法部
速見浩士

平成30年1月から12月における鹿児島県内16定点からの性感染症4疾患の患者報告数は、(1)性器クラミジア感染症467人、(2)性器ヘルペスウイルス感染症109人、(3)尖圭コンジローマ63人、(4)淋菌感染症235人であった。報告数の合計は874人であり、平成28年の報告数775人から99人(12.8%)増加し、平成29年の報告数960人から86人(8.9%)減少した。疾患別の増減では、性器クラミジア感染症、性器ヘルペスウイルス感染症、および淋菌感染症において報告数が減少しており、特に淋菌感染症は13.9%と最も大きく減少した。昨年よりも患者数が増加した疾患は尖圭コンジローマで23.5%増であった。

(1)性器クラミジア感染症は *Chlamydia trachomatis* が原因微生物の性感染症であり、男性では尿道炎、精巣上体炎を、女性では子宮頸管炎、骨盤腹膜炎などを発症する。平成30年の患者数は、平成29年の517人から50人(9.7%)減少し507人であった。月別の報告数は平成28年、平成29年と比較すると5月と7月で報告数が増加していた。保健所別報告数では、始良、川薩、鹿児島市の順に多く、全体の約85%を占めた。年齢層別には、20~24歳(23.1%)、25~29歳、30~34歳の順に多く、これらの3年齢層で全体の約59%を占めた。また30~39歳の比率が減少し、15~19歳と20~24歳の減少傾向は続いたが、25~29歳では比率が増加した。また、15歳~24歳の性器クラミジア感染症患者数232名は性感染症4疾患全体の約27%であり、同年代男女比は1.9:1で男性の比率が年々高くなっている。

(2)性器ヘルペスウイルス感染症は、単純ヘルペスウイルス(herpes simplex virus: HSV, HSV1型又は2型)の感染により発症する。平成30年は109人が報告され、平成29年の119人から10人(8.4%)減少した。月別の報告数は平成28年、平成29年と比較して4月、8月、9月の3カ月で報告数が増加し、1~3月の3カ月で報告数が減少していた。保健所別報告数では、鹿児島市が74件と最も多く、全体の68%を占めた。年齢層別には25~29歳、20~24歳(それぞれ15.6%、14.7%)の順に多くみられた。前年と比較した場合、15~29歳の比率が27%から38%へ増加したことが特徴的であった。また、15~19歳の男性に2名、女性に3名の患者がみられ増加傾向であった。

(3)尖圭コンジローマは、ヒトパピローマウイルス(ヒト乳頭腫ウイルス: HPV)の感染により、性器周辺に生じる有症状腫瘍である。平成30年の患者数は63人であり、平成29年の51人より12人(2.4%)増加し、性感染症4疾患の中で唯一増加した。月別の報告数は、平成28年、平成29年と比較して3月、6~8月、11月の5カ月で報告数の増加がみられた。保健所別報告数では始良、鹿児島市、川薩の順に多く、全体の89%を占めた。患者年齢層別では65~69歳、25~29歳、30

歳～34歳の順に多く、20～29歳が25.4%を占めた。また平成28年から2年連続で60歳～69歳での比率が増加したことが特徴的であった。

(4) 淋菌感染症は *Neisseria gonorrhoeae* による性感染症であり、男性では尿道炎、精巣上体炎を、女性では子宮頸管炎や骨盤腹膜炎を発症する。平成30年の淋菌感染症の患者数は235人であり、平成29年の273人から38人(13.9%)減少した。月別の報告数をみると以前からみられていた夏季に限って多い傾向は認められず、9月が最も報告数が多かった。また月別の報告数は平成28年、平成29年と比較すると3月、5月、9月で報告数が増加していた。保健所別報告数では、始良、鹿児島市、川薩の順に多く全体の約91%を占め、始良からの報告は全体の66%であった。年齢層別には、20歳台にピークがあり、20歳～29歳の年齢層が全体の44.7%を占めた。また、平成28年から2年連続で、15歳～19歳と20歳～29歳の比率が上昇し、30歳～39歳と45歳～49歳の比率が低下した。女性患者が38人で約16%であり前年と同様に低率であり、3年連続で比率が低下した。

平成30年の性感染症発生動向の特徴は、平成29年と比較して尖圭コンジローマを除いた3疾患において報告数が減少したことと20歳～29歳での比率が増加したこと。尖圭コンジローマでは60歳～69歳の比率が年々増加したこと、淋菌感染症において前年と同様に女性の比率が約16%であり3年連続で比率が低下したことであった。また、性器ヘルペスウイルス感染症と淋菌感染症での10歳代における患者発生比率が2年連続で増加していた点については、性感染症のさらなる低年齢化の徴候を示唆する所見として厳重な監視が必要である。また性器ヘルペスウイルス感染症を除いた3疾患で始良保健所からの報告数が2年連続で最も多かったことが地域的な特徴であった。

鹿児島県の性感染症発生状況の年次推移と疾患別男女比

平成11年から30年の4性感染症の1定点あたり報告数の年次推移を見ると、平成30年は54.7であり、平成29年と比べ5年ぶりの減少であった(図1)。男女比は2.8:1と男性の比率が5年連続で増加し、過去9年間で最も男性の比率が高かった。性器クラミジア感染症と淋菌感染症の男女比はそれぞれ2.7:1、5.2:1であった(図2)。平成27年までは性器クラミジア感染症の男女比が等しいことが鹿児島県の特徴であったが、3年連続で男性患者数が女性患者数を上回り、男性の比率が年々増加している。性器クラミジア感染症は女性患者が多いとする厚生科学研究班の全国サーベイランス報告や全国総数の男女比とは異なった結果であり、本県の性感染症の特徴として今後も動向の監視が必要である。

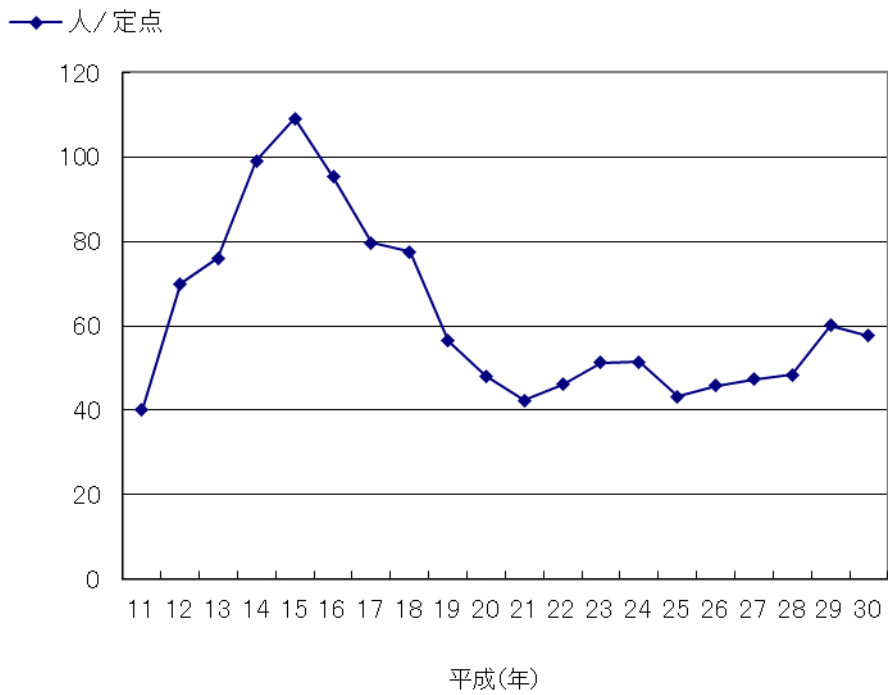


図1 性感染症の年次別定点当たりの報告数

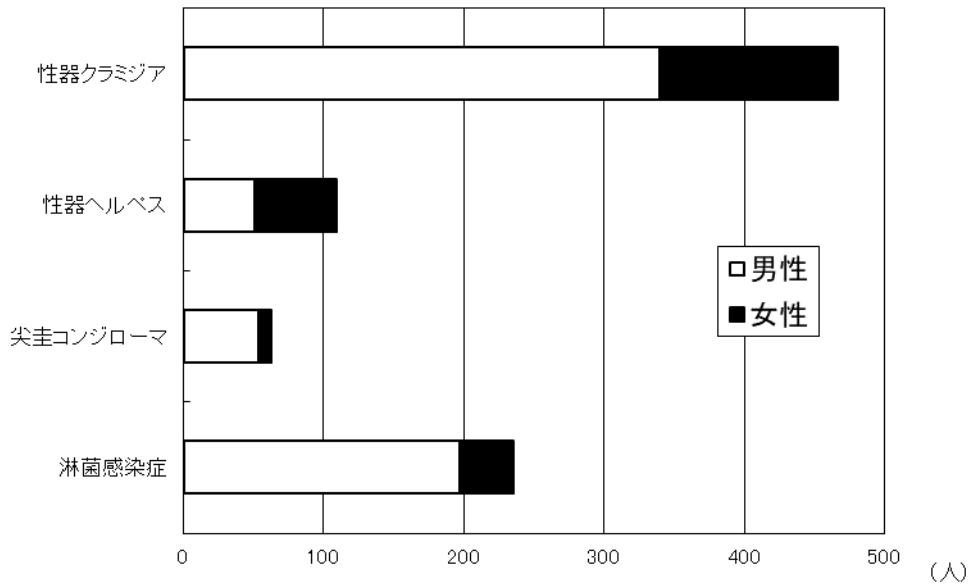


図2 平成30年の性感染症の疾患別男女別報告数(鹿児島県)

22)性器クラミジア感染症

(定義) *Chlamydia trachomatis* による性感染症である。

平成30年の性器クラミジア感染症の報告数は467人(累積定点当たり報告数29.19)で、平成29年(517人)より50人少なかった。月別報告数では、7月(48人)が最も多く(図2-22-1)、全国と比較すると、8月、11月、12月を除き、全国の定点当たり報告数を上回った(図2-22-2)。年齢別では、20～24歳(23.1%)、25～29歳(19.5%)、30～34歳(16.3%)の順に多かった(図2-22-3)。

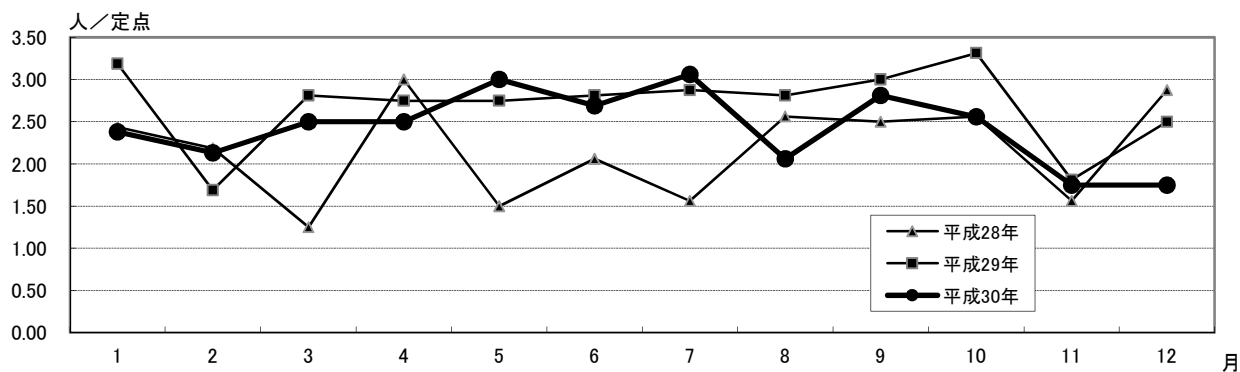


図2-22-1 年次・月別定点当たり報告数の推移(鹿児島県)

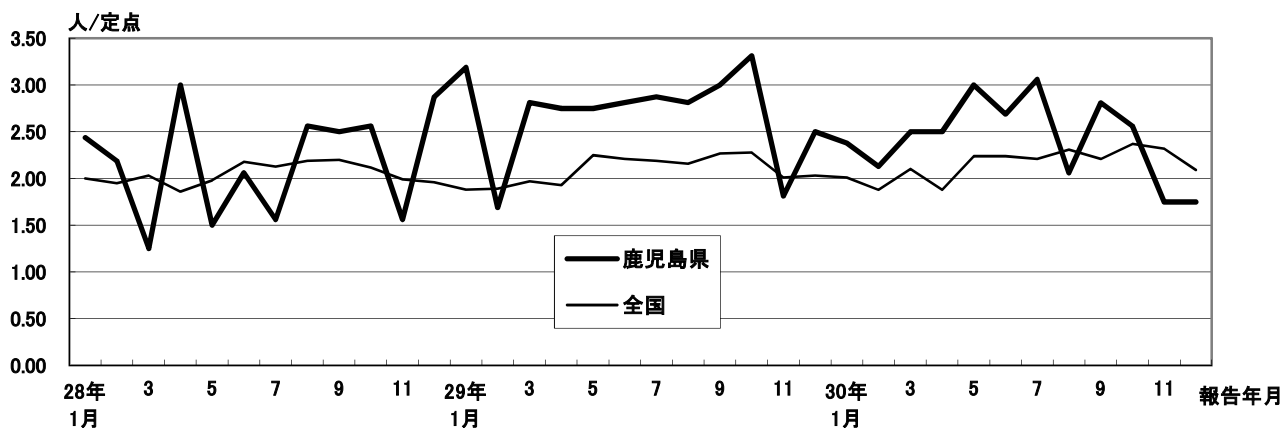


図2-22-2 定点当たり報告数の推移(鹿児島県, 全国)

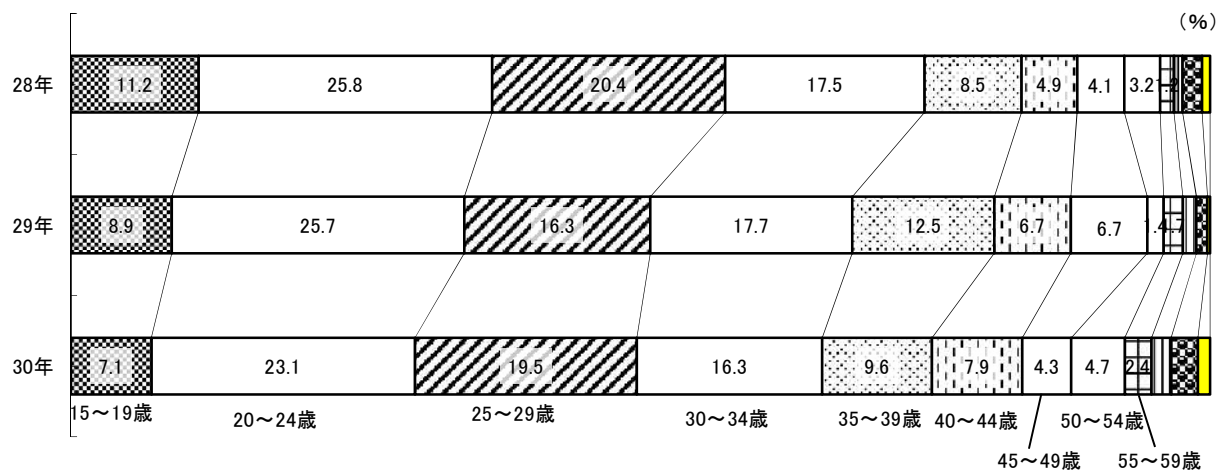


図2-22-3 年齢区分別患者発生状況(鹿児島県)

23)性器ヘルペスウイルス感染症

(定義) 単純ヘルペスウイルス(herpes simplex virus:HSV, HSV1型又は2型)が感染し、性器またはその付近に発症したものを性器ヘルペスという。

平成30年の性器ヘルペスウイルス感染症の報告数は109人(累積定点当たり報告数6.82)で、平成29年(119人)より10人少なかった。月別報告数では、9月(15人)が最も多かった(図2-23-1)。全国と比較すると、9月だけが全国より高値であったが、年間を通して全国よりも少ない状況で推移した(図2-23-2)。年齢別では、25～29歳(15.6%)、20～24歳(14.7%)、35～39歳(12.8%)の順に多かった(図2-23-3)。

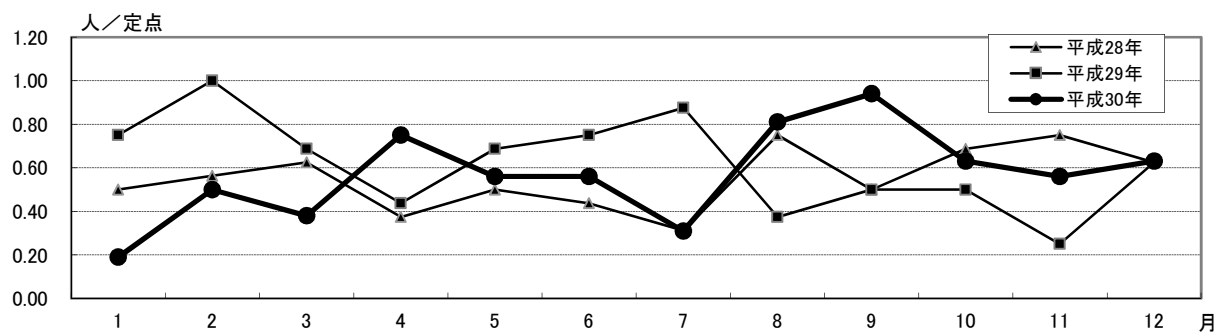


図2-23-1 年次・月別定点当たり報告数の推移(鹿児島県)

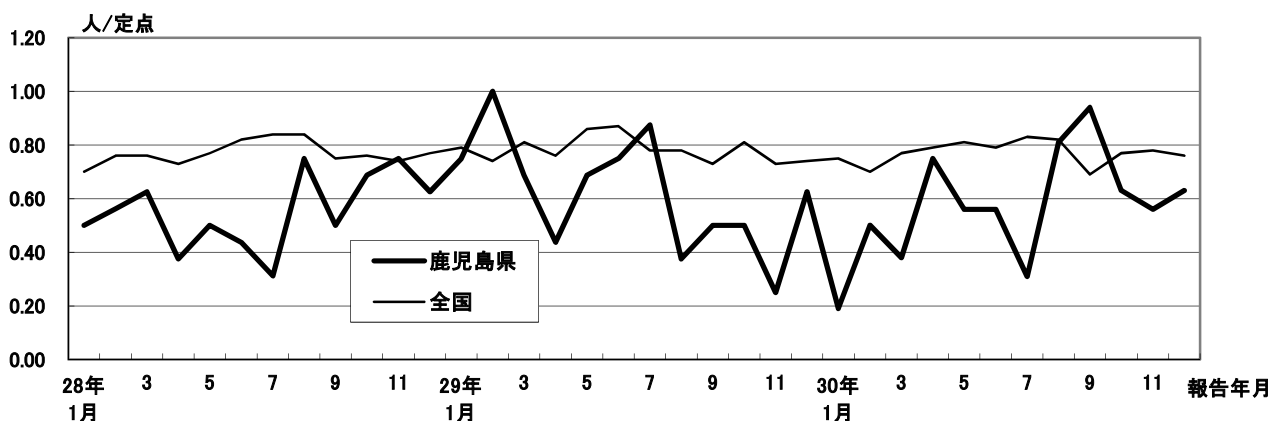


図2-23-2 定点当たり報告数の推移(鹿児島県, 全国)

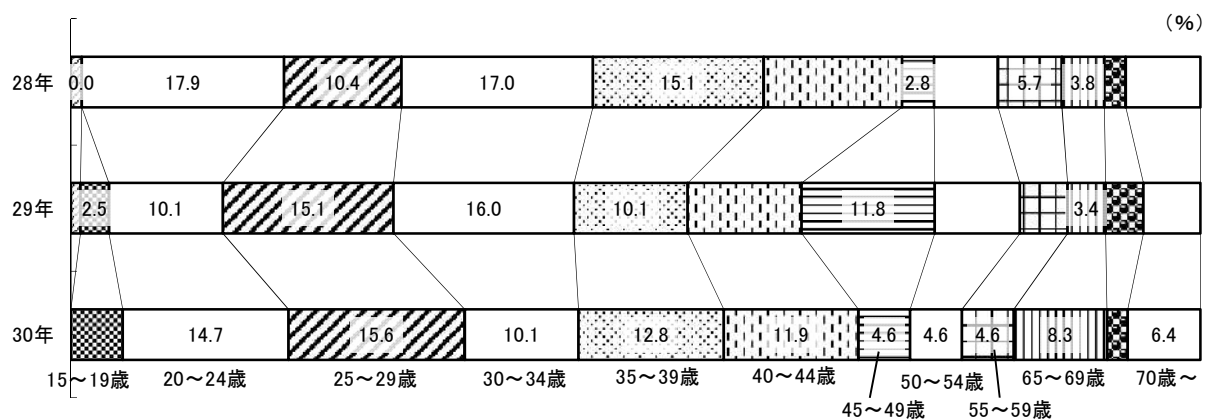


図2-23-3 年齢区別患者発生状況(鹿児島県)

24)尖圭コンジローマ

(定義) 尖圭コンジローマは、ヒトパピローマウイルス(ヒト乳頭腫ウイルス, HPV)の感染により、性器周辺に生じる腫瘍である。ヒトパピローマウイルスは、80種以上が知られているが、尖圭コンジローマの原因となるのは、主にHPV6型とHPV11型であり、時にHPV16型の感染でも生じる。

平成30年の尖圭コンジローマの報告数は63人(累積定点当たり報告数3.96)で、平成29年(51人)より12人多かった。月別報告数では、8月(9人)が最も多かった(図2-24-1)。全国と比較すると、8月以外は年間を通して少ない状況で推移した(図2-24-2)。年齢別では、65～69歳(17.5%)、25～29歳(15.9%)、30～34歳(14.3%)の順に多かった(図2-24-3)。

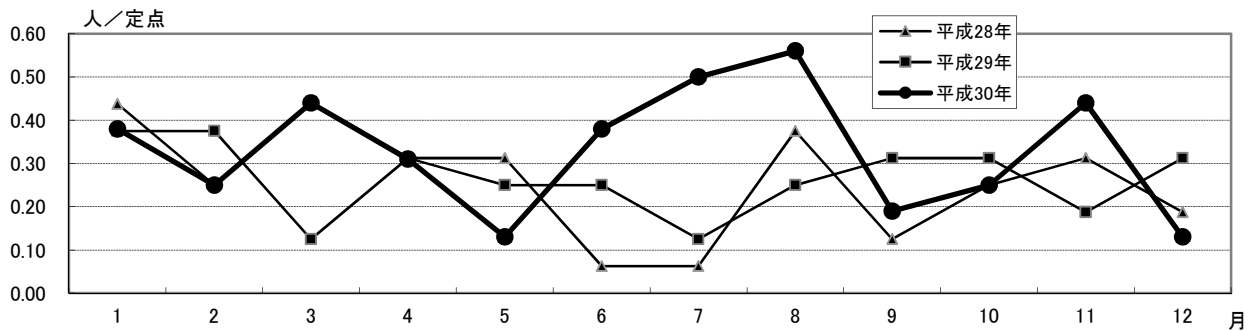


図2-24-1 年次・月別定点当たり報告数の推移(鹿児島県)

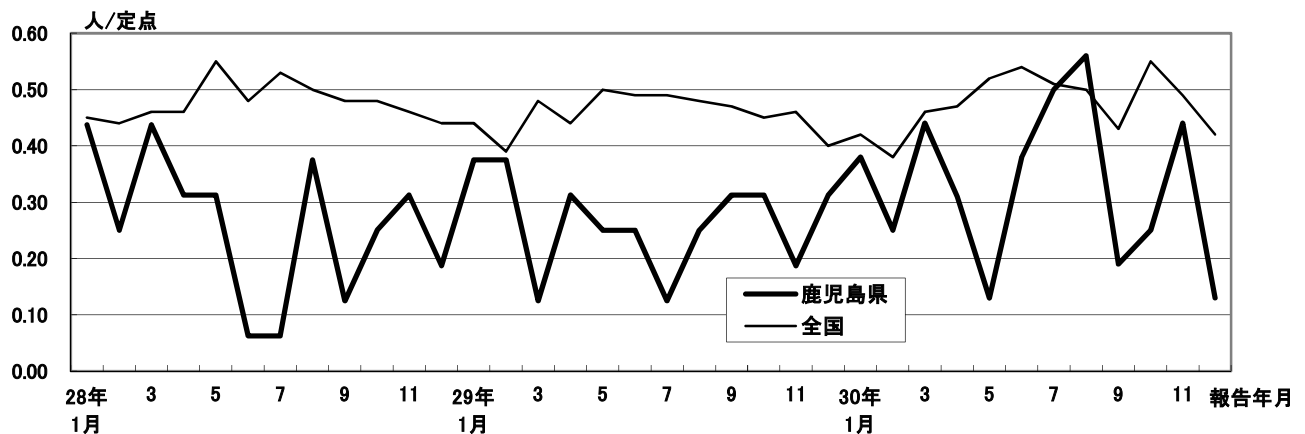


図2-24-2 定点当たり報告数の推移(鹿児島県, 全国)

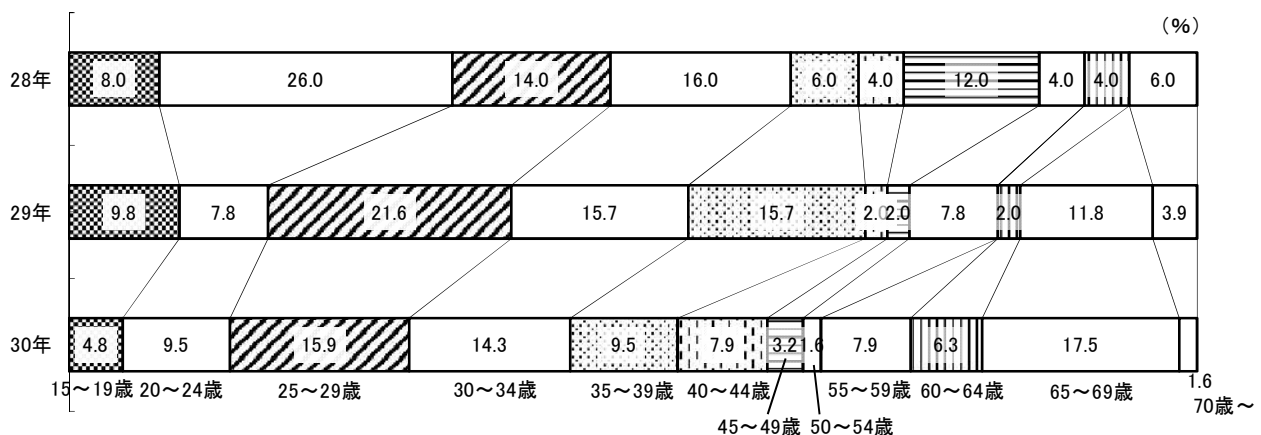


図2-24-3 年齢区分別患者発生状況(鹿児島県)

25) 淋菌感染症

(定義) 淋菌 (*Neisseria gonorrhoeae*) による性感染症である。

平成30年の淋菌感染症の報告数は235人(累積定点当たり報告数14.72)で、平成29年(273人)より38人少なかった。また、月別報告数では、9月(35人)が最も多く(図2-25-1)、全国と比較すると、10月、11月以外は、全国を上回った(図2-25-2)。年齢別では、20～24歳(24.7%)、25～29歳(20.0%)、30～34歳(16.6%)の順に多かった(図2-25-3)。

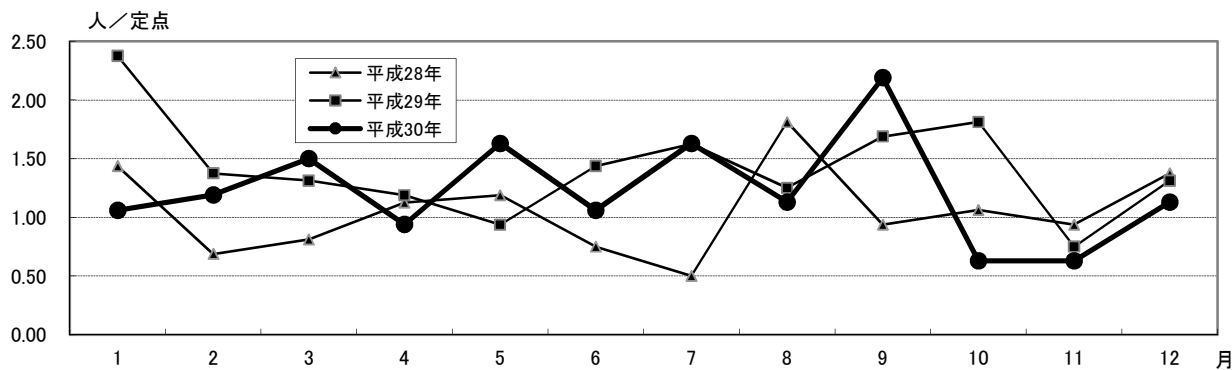


図2-25-1 年次・月別定点当たり報告数の推移(鹿児島県)

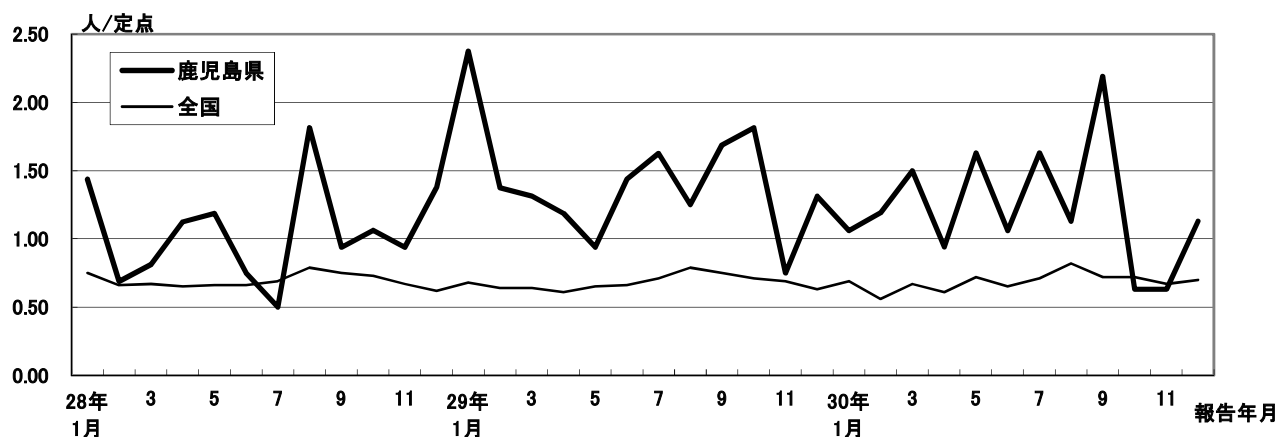


図2-25-2 定点当たり報告数の推移(鹿児島県, 全国)

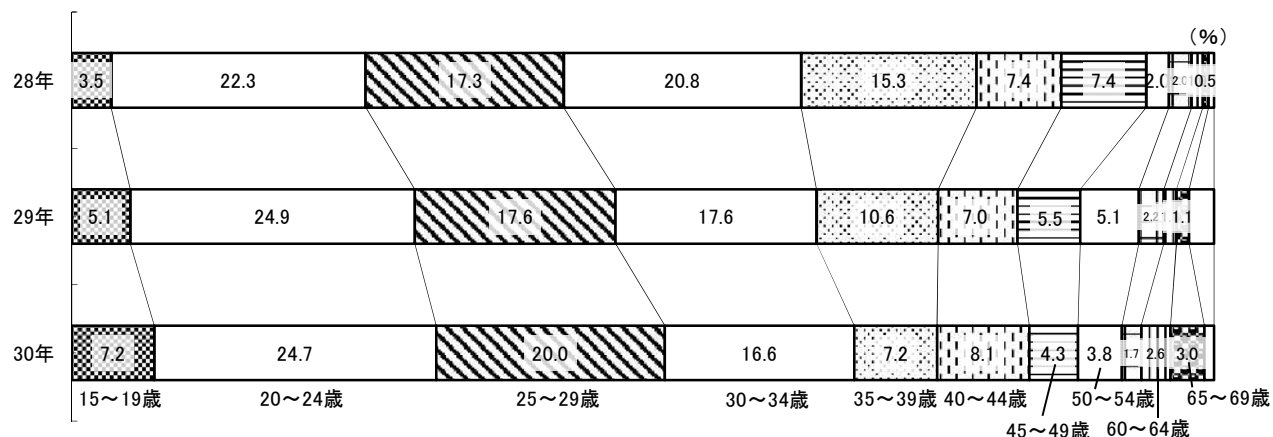


図2-25-3 年齢区分別患者発生状況(鹿児島県)